

課題名：保健指導DXによる生活習慣病予防の高度化・実用化に関する研究開発

代表機関／代表者：株式会社おいしい健康／野尻哲也

分担機関：京都府立医科大学

研究期間：令和7年9月～令和10年3月

研究開発目的

- 我が国では40歳～74歳を対象として、特定健診・保健指導を通じた健康増進が保険者によって広く実施されている。しかしながらメタボリックシンドローム該当者うち、特定保健指導実施率は24.6%に過ぎず、「定期健診を受け、せっかく疾患リスクを早期発見しても“4人に3人が将来を健康に過ごせる機会を逸失している”」というのが現状である。
- そこで本研究班では、特定保健指導における諸課題の解決に向けたデジタルソリューション開発と臨床研究を実施し、保険者における健康増進機能の強化を通じたヘルスケアサービスの実用化を実現する。

取り組み

- 健診施設を通じた、受診者の生活改善・減量を支援するスマートフォンアプリの提供とエビデンスの精緻化
- 上記スマートフォンアプリと保健師・管理栄養士および保険者とのデータ連携を促進、業務支援する統合ソリューションの設計と開発
- 顧客（保険者）におけるKPIをエンドポイントとした予備試験および本試験（臨床試験）の実施
- 実用化に向けた計画策定と、持続可能な収支計画・事業体制の整備

期待される成果

- 顧客調査に基づく実用化計画の策定とサービス設計（初年度）
- ヘルスケアサービスのエビデンス構築と実用化・社会実装の実現
- ライフスタイルデータを活用した保健指導・保険者機能の高度化（長期）

ソリューション像

- 特定健診時に、メタボリックシンドロームが疑われる受診者にアプリを提供
- アプリの事前問診により、保健指導時のアセスメントを効率化
- 保健指導では個人ごとの適切な目標設定とアプリ継続利用を支援
- アプリデータを保健師・保健者と連携し、リアルタイムでのモニタリングとAI伴走を実現



実用化の目標

- ビジネスモデルは保険者を支払顧客とするBtoBtoC
- 外部委託比率の高い保険者が優先的ターゲット
- 食とエビデンスを強みとしたポジショニング
- 伴走支援後に事業化し、3年後の黒字化を目標とする

